

物流支援ドローンサービスの 実用化に向けた実証実験

エアロセンス(株)
取締役 事業推進担当
嶋田 悟

エアロセンス事業戦略

- 産業用UAVに共通なワークフローをプラットフォーム化し、様々な領域へ展開。



現在の物流モデル

・資材モニタリング関連:
Value Chain 間の情報断絶・非連携



本事業の物流モデル

・資材モニタリング関連:
Value Chain 間の情報共有・連携



・僻地輸送関連:
旧態依然の物流モード(陸上・海上)



・僻地輸送関連:
物流モードのシフト(空輸)



3

本事業の実施概要(2015/12/16 – 2016/2/29)

- ① 実用化に向けたマルチコプターの製作
- ② 実用化に向けたハード・ソフトウェアの整備
- ③ 運搬の実証実験のためのVTOLの製作
- ④ 実証実験(資材モニタリング関連+僻地輸送関連)

4

本補助事業の成果

- 資材モニタリング関連；
 - 大き目のRFIDタグであれば Flyby で読めることを確認。
 - CO₂削減効果試算：年間17万トン
(前提条件：今後、RFID及び画像認識が普及する見込)
- 僻地輸送関連；
 - 災害時の要請に技術的には対応可能なことを確認。
 - CO₂削減効果試算：年間11万トン
(前提条件：今後、定常輸送化技術を実証する見込)

私たちは、自律型無人航空機(UAV)とクラウドサービスを
組み合わせた産業用ソリューションの提供を通じて、
より効率的な観察、測量、管理、物流等を実現し、
環境に配慮した安心して暮らせる社会の実現に貢献していきます。

AeroSense

<http://www.aerosense.co.jp>